



## 教員（京都大学防災研究所）公募のお知らせ

京都大学防災研究所では、下記の要領で教員を公募しております。

### 記

公募人数：教授 1名

所 属：大気災害研究部門暴風雨災害研究分野

研究内容：台風・竜巻・集中豪雨などのメソスケールの異常気象現象の発生・発達機構や、アジアモンスーン等の地域規模のエネルギーや水の循環、及びそれらの現象の素過程である海面・陸面相互作用に関する研究を行う。また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地球物理学分野の教育を担当する。

任用時期：平成17年10月1日以降

応募資格：博士の学位を有する者。

提出書類：

- 1) 履歴書
- 2) 研究業績一覧(「著書」,「論文」,「総説・解説」,「報告書」)に分類し,論文については,「査読

あり」,「査読なし」および「国際会議報告」等に区分して一覧表を作成すること)

- 3) 主要論文5篇の別刷またはコピー
- 4) 研究業績の概要(A4判用紙2枚以内)
- 5) 今後の研究計画及び抱負(A4判用紙2枚以内)
- 6) 推薦書または応募者について意見を伺える方の氏名と連絡先

公募締切：平成17年6月30日(木) 必着

書類提出先：〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学宇治地区事務部

防災研究所担当事務 吉山孝子 気付  
大気災害研究部門暴風雨災害研究分野  
教授候補者選考委員会(宛)(封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し,郵送の場合には簡易書留にすること。)

問い合わせ先：封書の場合は書類提出先と同じ

Tel : 0774-38-3348, Fax : 0774-38-4030

E-mail : tyosiyam@uji.kyoto-u.ac.jp

編集後記：各所でフレッシュな顔ぶれが揃い新年度がスタートしたと思います。これからの研究プラン、授業プラン、あるいは事業プランを立てて実行もスタートした(あるいは、しようとしている)ところでしょう。編集委員としてもフレッシュな気持ちで「天気」の発刊に努めたいと思います。

さて編集委員会では2007年に迎える日本気象学会125周年企画の検討が始まりました。長い気象学会の歴史の中で気象学は様々な分野に影響もし影響もされてきたことと思います。その中でも、いつの時代も天候が企業活動や一般消費活動にも大きく影響していることは知られていたことでした。まさに「風が吹けば桶屋が儲かる」という格言が象徴的でしょうか(多くの会員の皆様にはテレコネクションを思い浮かべるので

ないかと思いますが……)。巷では、昨年の猛暑や台風などの影響で「天候デリバティブ」(デリバティブとは金融派生のという意味)商品の人気急上昇したそうです。だいたい名前が定着してきましたのでご存知の方も多いたと思いますが、天候デリバティブは、気象要因によって被害を受ける恐れがある企業などが、損害分を取り戻す(リスクヘッジする)のに役立つ金融商品のことを言い、気温や雨量など天候に応じて補償金を払う保険に似た商品です。損保会社や銀行が販売しています。

日本における天候デリバティブの需要は、今のところ、自社事業でリスク分散できる大企業よりも、自社でリスク分散できない中小企業や小売業に需要が多いそうです。猛暑で客足が鈍るリスクを持っているラー